

平成 30 年度 研究計画書

Research Plan FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化専攻 教授
氏名 Name	今井 忍
専門分野 Academic Field	言語学

平成 30 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2018 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	日本語の形態法に関する認知言語学的研究				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>30 年度は、除去動詞の振る舞いについてさらに検討を行う。29 年度の研究では、out を含む句動詞と「出す」を後項とする複合動詞から除去動詞を帰納的に抽出する方法について検討し、すでいくつかの動詞が抽出されたが、out や「出す」以外に、off を含む句動詞、「取る」を後項とする複合動詞についても考察の範囲を広げ、除去動詞の性質についてより詳細な考察を行いたい。また、抽出された日本語と英語の除去動詞について、翻訳上の対応があるかどうかを日英並行コーパスを使って分析を行う予定である。</p> <p>また、日本語の語種については、引き続き onomasiological approach に基づく分析の可能性について考察していきたい。</p> <p>さらに、29 年度に行った構文文法と日本語教育の関係についても考察を深めていきたい。英語教育では構文文法の応用がすでに始まっており、日本語教育についても応用可能性は高いと思われる。特に、類似した意味・機能を持つ構文についてまず考察してみたい。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	日本語学	英語学	認知科学		
キーワード Keywords*2	形態論	認知言語学	構文文法		